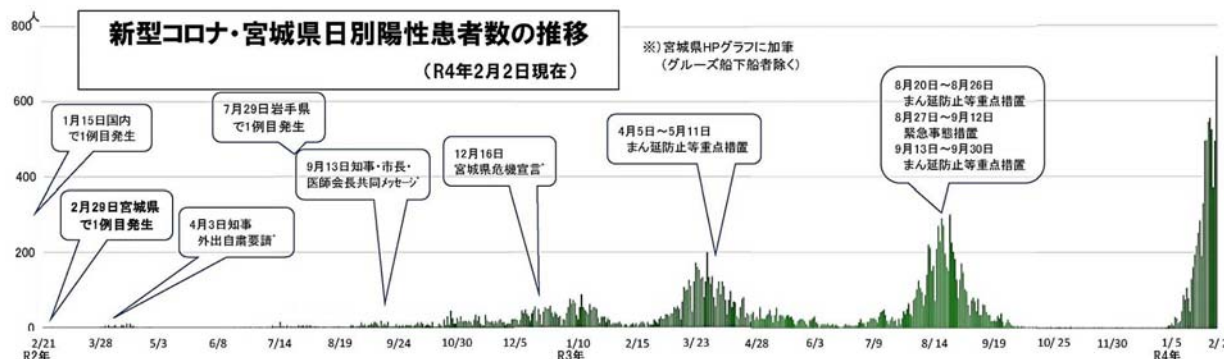


新型コロナウイルス感染症は、令和2年2月29日に宮城県内での1例目の罹患者が確認され、現在はオミクロン異変株が猛威をふるい、ピークが未だ見えない状況です(下図グラフ)。この感染は、国民生活や経済活動はもちろん、街道活動にも影響を及ぼしています。



今回は、主にみやぎ街道交流会及びとうほく街道会議の活動への影響と対応を整理し、ウィズコロナ時代の活動の参考としたいと思います。また、関連団体にも参考としてほしいと思います。

令和2年2月23日のみやぎ街道交流会講演会は、講師を囲んでの街道談義も含め平常どおり開催されていますが、3月13日予定の「とうほく街道会議福島大会」精算委員会は急遽書面開催に変更されたのが最初の影響で、9月予定の「とうほく街道会議八幡平大会」は、委員会等開催もできないことから、4月初に次年度以降へ延期が決定されるなど多くの活動に影響を及ぼしました。

これまでの各活動団体のコロナ対応策等を整理すると下記のとおりです。

(開催日) 県のホームページ等から感染状況の推移や記者発表内容、過去の季節的な変動把握をし、設定するとともに、感染状況によっては中止・延期も想定した準備をする。

(総会や講演会等の屋内で開催する場合)

- 1) 当面募集定員は、会場収容定員の半数となるよう設定する。
- 2) 募集チラシ等開催案内に「新型コロナウイルス感染防止対策について」を明記する。
3密回避(会場収容定員の半数以下)、基礎疾患保有者の辞退等、会場入口での検温・手の消毒、マスク着用・咳エチケット、会場での大声や近接会話回避、会場の換気、事前申込による氏名・連絡先の把握、感染状況による中止等

(富谷大会での一例)



会場入口での消毒・検温の誘導 会場の席配置と換気担当配置 アクリル板設置

- 3) プログラムに休憩等を入れ会場の換気を行う、共用マイクの消毒等を実施する。
- 4) 街道談義は、多人数が長時間でノーマスク状態が多くなることから当面中止する。
- 5) 総会・幹事会・事務局会議等は、Web会議(メールやZoom・Meetの活用)の実施も検討する。
- 6) 講演会・分科会は、集合とWebを組み合わせたハイブリッド方式も有効である。
また、講演会の場合は、後日でも視聴出来るWeb上での公開も有効かつ便利である。

(街道探訪会等の野外で開催する場合)

- 1) 街道等の屋外を歩く時でもマスクを着用する。急坂等でマスクを外す場合は、前後の距離を取って歩すが、すぐ着用できる様に鼻を出すと顎にかけておくことも必要である。
- 2) 昼食は、黙食とし、話す時はマスクを着用する。席は4人掛席に斜め2人掛等ゆとりを持つ。店の場合はアクリル板のある選ぶ。季節や天候によっては屋外での弁当もある。
- 3) バス利用をする場合は、当面バス定員の半数で、募集定員や配車計画を検討する。
・マイクロバスの場合(助手席含み): 19席タイプ⇒12名、22席タイプ⇒14名
・中型バスの場合: 28席タイプ⇒14名、33席タイプ⇒17名

この様に当たり前の事ばかりですが、当たり前の事をしっかりと実施することが重要だと思います。

みやぎ街道交流会

題字揮毫:高倉 淳初代会長

みやぎ街道交流会
ニュース第42号
2022.2.8発行

【今回号の目次】

- レポート
ウィズコロナ時代の街道活動について **P1**
- 令和3年度活動報告
 - 1) 奥州街道・富谷宿大会(その2)
「第1部: 富谷宿巡りの魅力探検ツアー」 **P2**
 - 2) 秋のくりはら奥州街道ツアー(有壁～築館) **P3**
 - 3) 芭蕉の道・山刀伐峠探訪 **P4**

【編集後記】

○みやぎ街道交流会ニュース第42号をお届け致します。
○令和2年2月からのコロナ禍のため、各団体の活動が制約されていますが、ウィズコロナに向けた感染対策取組を整理してみました。今後も新たなウイルス出現の可能性もいわれていますので、今回の経験を生かして行く必要があると思います。なお、ご意見を頂ければ幸いです。
○この様なコロナ禍の中でも、感染状況の合間に実施された3つの活動の報告を掲載しました。(やま)

「とうほく街道会議 奥州街道・富谷宿大会(その2)」 第1部「富谷宿巡りの魅力探検ツアー」(ワークショップ)

[令和3年12月12日 富谷中央公民館]

▶令和2年11月に富谷宿開宿400年「奥州街道・富谷宿大会」を開催した結果を受けて、“とみやど”を拠点とした広がりや厚みがあり、リピート性のある富谷宿を目指すために、今回は第1部として「富谷宿巡りの魅力探検ツアー」をワークショップ形式で開催しました。
▶更に、第2部の「富谷宿巡りガイド育成」について、他地域の事例から学ぶフォーラムを開催する予定です。

■ オリエンテーションの様子



案内及びアドバイザーの紹介

コース概要説明

■ 富谷宿の魅力探検ツアーの状況 (1)



北雲台(内ヶ崎家墓所)

内ヶ崎家別邸

■ 富谷宿の魅力探検ツアーの状況 (2)

Aコース: 富谷宿の街道筋を中心に巡る Bコース: 富谷宿の建物を中心に巡る Cコース: 富谷宿の神社・石碑・茶畑を巡る



脇本陣跡・氣仙屋奥座敷



旧佐忠商店(富谷宿)



とみやどの門前



熊野神社・古碑群



八雲神社(南口)



天満宮・毘沙門堂・稲荷大明神



富ヶ岡公園からセツ森・舟形を望む



氣仙屋茶畑

■ グループワーク (各コース2班に分かれて)



各歴史資源等の魅力のある点・課題となる点などを整理

■ 各コース班別の報告・意見交換



グループワーク結果を全8班毎の代表者が報告

▶各コースのアドバイザーから東北各地の街道を歩いた経験からの意見を頂きました。
▶総括として、とうほく街道会議宮原会長及びみやぎ街道交流会白鳥会長から講評があり閉会しました。



◆参加者は、46名(男29・女17、案内等スタッフ含)でした。
◆ワークショップで頂いた評価・意見等は206項目で、若い人や女性の視点も含めて大変貴重なものが多くありました。今後整理・分析して、富谷市に提言したいと思います。

秋のくりはら奥州街道ツアー（有壁～築館）

◆日時:令和3年11月21日 8:30～15:30 (栗原市役所金成庁舎前集合) ◆参加者:20名 ◆案内:くりはら街道会議小野寺薫会長
 ◆コース:金成庁舎⇒有壁・肘曲り坂～旧有壁本陣⇒金成末野上浦山～十万坂～金成末野十万坂下⇒新鹿野一里塚～
 (県道弥栄金成線の区間はバス乗車)～夜盗坂⇒築館IC(国道4号)⇒赤坂神社(下車)⇒新山権現社跡(下車)～双林寺(昼食)・
 薬師堂(瑠璃殿)・姥杉⇒築館藤木(一里塚跡:下車)⇒築館留場(一迫川橋跡杭:下車)⇒(宮野宿)⇒(死人沢)⇒
 城生野・大仏山(下車)⇒(伊治城跡)⇒金成庁舎 [徒歩距離計約4.5km] ※⇒バス移動 ～徒歩
 ◆主催:くりはら街道会議 ◆共催:栗駒山麓ジオパーク推進協議会 ◆後援:みやぎ街道交流会



肘曲り坂



有壁・観音寺の馬頭観音碑群



旧有壁本陣



旧有壁本陣・御成門



旧有壁本陣・御成玄関



旧有壁本陣・庭園



十万坂峠の石塔(天保15年)



十万坂を下る



新鹿野一里塚



若柳有賀新山付近の街道



夜盗坂手前の街道



赤坂神社(山神社)



双林寺・薬師堂(瑠璃殿)



大仏堂

◆栗原市の奥州街道は、今回以外の街道景観が残る区間として、高清水～築館ICや肘曲り坂～鬼死骸(一関市旧国道4号まで)区間があります。
 ◆今回歩いた有賀新山～夜盗坂の東北自動車道前後の前後1.3kmは、平成21年に街道団体と地元の皆さんで刈払いを行いました。その後は栗原市の支援と地元関係者協力の草刈りにより、旧街道の保全が続けられています。

- 芭蕉の道・案内人協議会 (いわいの里ガイドの会、玉造案内人の会、くりはら街道会議、栗原案内人会、みやぎの明治村観光案内人、花泉町先人顕彰会、観光交流ネット千厩、みやぎ街道交流会、とうほく街道会議) では、これまでに一関～岩出山～最上町封人の家及び一関～平泉間の芭蕉の道の調査研究やツアーを実施しています。
- 今回、大崎市真山地区公民館主催のツアーに、最上町「封人の家」から尾花沢までの調査・研究を目的に協議会メンバーで探訪会へ参加したものです。(案内: 玉造案内人の会) ※参加者は37名(スタッフ含み)、2台の中型バス分乗
- 行程は、真山地区公民館(9:00)⇒鳴子⇒赤倉⇒最上町口駐車場～山刀伐峠～山頂駐車場⇒尾花沢口駐車場⇒尾花沢・養泉寺⇒大石田(昼食)⇒尾花沢市・芭蕉清風歴史資料館⇒真山地区公民館(16:00) ※⇒バス移動 ~徒歩

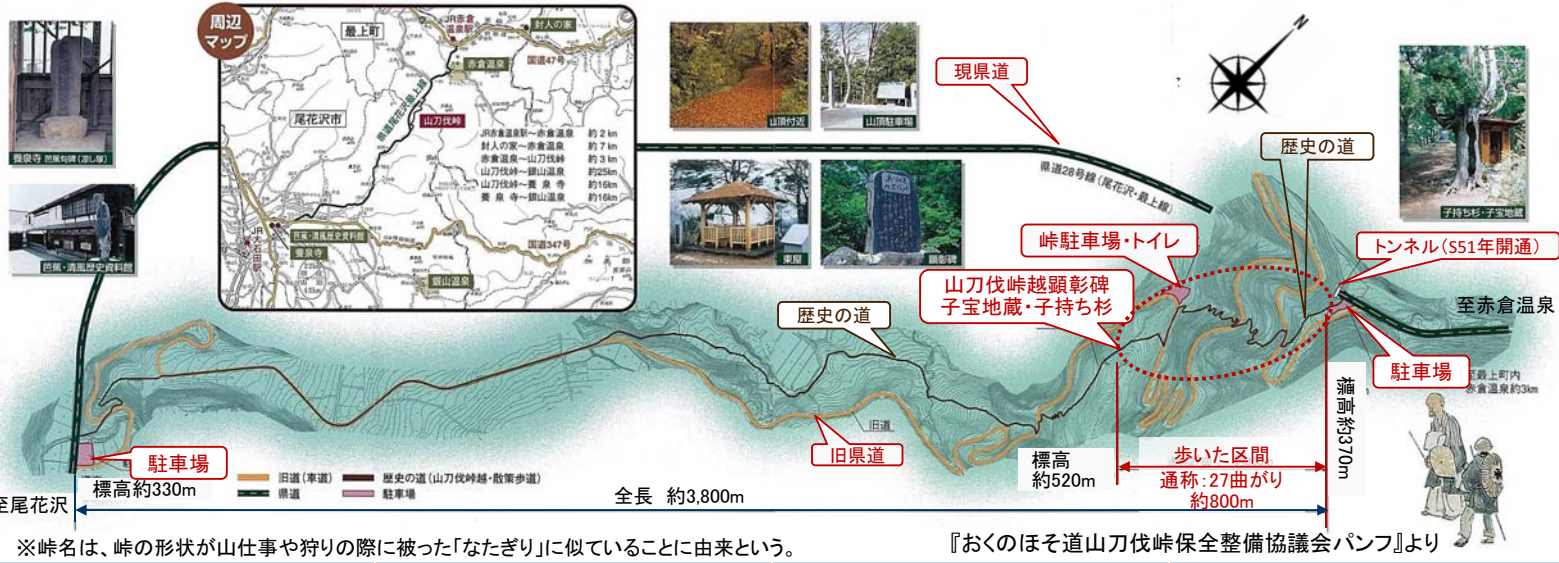
『おくのほそ道』及び『曾良随行日記』には、「山刀伐峠越え」はどの様に記述されているのか？

『おくのほそ道』 元禄2年(1689)5月17日(陽暦7月3日) (角川ソフィア文庫『新版おくのほそ道』(平成19年11月10日発行)より抜粋)

あるじのいはく、これより出羽の国に大山を隔て、道定かならざれば、通しるべの人を頼みて越ゆべきよしを申す。
 「さらば」といひて人を頼みはべれば、究竟(くつきょう)の若者、反脇指を横たえ、極の杖を携へて、われわれが先に立ちて行く。
 今日こそ必ず老ふさめにもあふべき日なれど、辛き思ひをなして後に付いて行く。あるじのいふにたがはず、高山森々として一鳥聲きかず、木の下閑浅り合ひて夜行くがごとし。雲端につちふる心地して、篠の中踏み分け踏み分け、水を渡り、岩に蹶(つまづ)いて、肌冷たき汗を流して、最上の庄に出づ。かの案内せし男(をのこ)のいふやう、「この道必ず不用のこどあり。恙(つつが)なう送りまゐらせて、仕合はせしたり」と、喜びて列れぬ。後に聞きてさへ、胸どどろくのみなり。

『曾良随行日記』

十七日 快晴。堺田ヲ立。一里笹森岡所有。新庄領。関守ハ百姓ニ貢ヲ宥(ゆる)シ置也。サハ森、三ノ市野々。小国ト云ヘカレバ廻リ成故、一バネト云山路ヘカリ、此所ニ出。堺田方案内者ニ荷持セ越也。



山刀伐峠は、待望の街道で、つづら折れの「高山森々」の峠道でした。今回は赤倉温泉側から頂上まででしたが、残りの下り区間も魅力的です。